

佛教学セミナー

総目次

(第五十二号・昭和四十年五月より  
平成二十一年十月まで)

第一号 (昭和四十年五月)

品切れ

大乘佛教について

山口 益

——その精神史観への一試攷——

天台法界観の系譜

安藤 俊雄

鎌倉末—南北朝の唯識宗

富貴原章信

『往生要集』の思想的意義

坂東 性純

煩惱障所知障と人法二無我

舟橋 尚哉

\* \* \*

中国佛教への道しるべ(1)

横超 慧日

ウィーンインド学研究所の近況

雲井 昭善

インド・ビハール州立四研究所の現状(一)

——ナランダー・パリー研究所——

長崎 法潤

第二号 (四十年十月)

品切れ

佛教における有形なるものと無形なるもの(上)——佛教学と真宗学との接点——

舟橋 一哉

祭祀とブツダの主張

雲井 昭善

弥勒と阿逸多

桜部 建

梁代二諦思想の特質

福島 光哉

——僧肇の二諦説との関連について——

\* \* \*

中国佛教への道しるべ(2)

横超 慧日

第三号 (四十一年五月)

品切れ

佛教における有形なるものと無形なるもの(下)——佛教学と真宗学との接点——

舟橋 一哉

律蔵にあらわれたる佛伝の宗教性について

佐々木教悟

佛教の現実的性格

安井 広済

——無常・無我・空の思想の意味するところ——

大乘における相即の論理の内景

——煩惱即菩提の思想について——

鍵主 良敬

\* \* \*

中国佛教への道しるべ(3)

横超 慧日

インド・ビハール州立四研究所の現状(二)

——ミティラ研究所、ジャヤスワール研究所、ヴァインチャリ研究所——

長崎 法潤

\* \* \*

ルイ・ド・ラ・ヴァレー・プーサン教授  
についての略述

丘・ラ・モート  
大谷大学佛教学研究室記

第四号 (四十一年十月)

品切れ

華嚴経における寂滅道場と祇園精舎

——法蔵の解釈を主として——

山田 亮賢

チベット中世初期における般若中觀論書の訳出(上)

稲葉 正就

所引の経論を中心にした中觀宝燈論の考察(二諦章一)

荷葉 堅正

竺道生の般若思想

三桐 慈海

涅槃経中の本有今無偈について

——佛性涅槃の常住といわれる意味——

張 曼 濤

\* \* \*

第二回エドワード・F・ギアラヒュー

世界宗教会議に参加して

坂東 性純

第五号 (四十二年五月)

品切れ

四十余年未顕真実の意義

横超 慧日

チベット中世初期における般若中觀論書の訳出(下)

稲葉 正就

智慧から慈悲への動向 小川 一乘

——如来藏(佛性)思想の本意——

\* \* \*

インド佛教への道しるべ(1) 舟橋 一哉

——原始佛教——

欧米でみた日本人留学生 佐々木現順

\* \* \*

佛教学の方法論についての覚え書 上田 義文

\* \* \*

第六号(四十二年十月)

品切れ

宗教と民族性(上)

佐々木現順

光胤の唯識思想

富貴原章信

華嚴における佛の光明について(上)

鍾主 良敬

\* \* \*

インド佛教への道しるべ(2) 舟橋 一哉

——テビダルマ佛教——

国際東洋学者会議に出席して

桜部 建

\* \* \*

チベット佛典について 山口 益

第七号(四十三年五月)

品切れ

佛教学研究について 水野 弘元

——宗教と民族性(下)—— 佐々木現順

華嚴における佛の光明について(下) 鍾主 良敬

\* \* \*

\* \* \*

南条文雄先生 雲井 昭善

——近代佛教学研究の先駆者——

\* \* \*

フランス佛教学・日本学についての雑感 白土 わか

\* \* \*

インド佛教への道しるべ(3) 安井 広済

——中観佛教——

第八号(四十三年十月) 二五七円

恵心僧都と四明知礼(上) 安藤 俊雄

——趙宋期における日中天台の交流——

根本説一切有部における帰依三宝について 佐々木教悟

源信の教・観の性格について

——『観心略要集』を中心として——

坂東 性純

撰大乘論における声聞乘のアーラヤの異 片野 道雄

門

\* \* \*

常盤大定先生 横超 慧日

——中国佛教学史研究の大成者——

\* \* \*

佛教における体系と創造 玉城康四郎

\* \* \*

第九号(四十四年五月) 二五七円

懺悔について 山口 益

恵心僧都と四明知礼(下) 安藤 俊雄

——趙宋期における日中天台の交流——

狂言綺語について 白土 わか

\* \* \*

ドクトル渡辺海旭 桜部 建

——真に学を愛した「現代的佛者」——

\* \* \*

インド佛教学史への道しるべ 佐々木教悟

ワシントン大学のインド学 一郷 正道

\* \* \*

「肇論研究」に見えたる慧達序の読み方 神田喜一郎

に対する私見

第十号(四十四年十月) 二五七円

真空妙有 舟橋 一哉

——佛教学と真宗学との接点——

プラマーナ・ヴァールテイカ為自比量章の

順位 長崎 法潤  
僧叡の研究(上) 古田 和弘

佐伯定胤老師 富貴原章信

—法隆寺の故和上を偲んで—

インド佛教への道しるべ(4) 安井 広濟

—唯識佛教—

第十一号(四十五年五月) 三〇九円

浄土について 山口 益

A・J・トインビーの佛教觀

桜部 建

十隨念の成立過程

吉元 信行

僧叡の研究(下)

古田 和弘

インド佛教への道しるべ(5) 佐々木教悟

—戒律佛教—

ホンコン・タイワン佛教学への望蜀の言

佐々木現順

旅行記—現代世界の佛教に寄せる関心—

坂東 性純

過去佛思想について 宮坂 宥勝

第十二号(四十五年十月) 三〇九円

积尊における対機説法

舟橋 一哉

—一人と一人との対話—

有漏の分別智について

鍵主 良敬

—華嚴学への一試論—

慧均撰四論玄義八不義について(1)

—大乘玄論八不義との比較対照—

三桐 慈海

菩提心について

平野 修

—初歡喜地の問題—

\* \* \*

原始佛教研究の道しるべ(1)

佐々木現順

モンゴル・ソ連の佛教事情

坂東 性純

第十三号(四十六年五月) 三〇九円

劉宋慧観の法華経観

横超 慧日

実相の世界

安井 広濟

—龍樹における空の論理の考察—

念佛の象徴性

坂東 性純

八識思想の成立について

舟橋 尚哉

—楞伽經の成立年時をめぐって—

佛教にみられる Bhakti の影響

渡辺 顕信

原始佛教研究の道しるべ(2) 佐々木現順

第十四号(四十六年十月) 三〇九円

人間的存在の構造(1)

佐々木現順

—生と死—

「Papers of Th. Stcherbatsky」を一読して 荷葉 堅正

唯識二十論における artha について

大崎 昭子

楞伽宗考

八木 信佳

\* \* \*

赤沼智善先生

舟橋 一哉

—堅実なる学風の人—

ベルンハルト博士の客死を悼む

佐々木現順

\* \* \*

日本民族性と佛教の発展(1) 鈴木 大拙

第十五号(四十七年五月) 三六〇円

人間的存在の構造(2) 佐々木現順

—生と死—

初期パリー佛典に見える「疑」の語について

第十七号 (四十八年五月) 三六〇頁

法華玄義の教相論

桜部 建  
福島 光哉

佛身觀の思想的展開

山口 益

智顛の佛性思想

大野 栄人

プラマーナ・ミーマーンサーの意味

長崎 法潤

\* \* \*

—Pm. 1.1.5~1.1.27を中心にして—

日本民族性と佛教の發展(2)

鈴木 大拙

大乘玄論の八不義

三桐 慈海

円頓戒の根本問題

恵谷 隆戒

——慧均撰八不義について(2)——

中国佛教研究法私見

横超 慧日

第十六号 (四十七年十月) 三六〇頁

初期佛教の業思想について

舟橋 一哉

——相應部の一經典の解釈をめぐって——

第五・第六菩薩地に対する世親註の骨格

平野 修

人間の存在の構造(3)

佐々木現順

——生と死——

——近代の教学を荷負した情熱の人——

山田 亮賢

梵網經の形態

白土 わか

——入中論第一章第一~四偈——

田端 哲哉

法雲の佛身説

小川 一乘

日本民族性と佛教の發展(4)

鈴木 大拙

チベット文献研究への道しるべ(1)

稲葉 正就

初唐 法宝の佛性説について 富貴原章信  
佛教における僧伽の基本的理念について 佐々木教悟  
如来性起經典の怪 鍵主 良敬

\* \* \*

——その正体をめぐる常盤・高峰説への疑義——

日本民族性と佛教の發展(3)

鈴木 大拙

——近代教学を荷負した情熱の人——

山田 亮賢

\* \* \*

第二十九回パリ国際東洋学者会議に加わって

佐々木現順

\* \* \*

第二十号 (四十九年十月)

品切れ

業に関する若干の考察

水野 弘元

中辺分別論(障品)の和訳並びに研究(1)

舟橋 尚哉

無性の学流について

片野 道雄

——チベット訳をテキストとして——

第十九号 (四十九年五月) 四二二頁

——特に初歩の学生諸君のために——

入楞伽經にあらわれる人法二無我の教説について

安井 広済

無色界とさとり

坂東 性純

中辺分別論(障品)の和訳並びに研究(2)

舟橋 尚哉

チベット文献研究への道しるべ(2)

稲葉 正就

統佐々木月樵先生

山田 亮賢

——近代教学を荷負した情熱の人——

第二十九回パリ国際東洋学者会議に加わって

佐々木現順

第二十号 (四十九年十月) 品切れ

水野 弘元

律蔵とカルマン 平川 彰

佛教における業論展開の側面

——原始佛教からアビダルマ佛教へ——

舟橋 一哉

業論の本質 佐々木現順

功德を廻施するという考え方

椋部 建

原始佛教における帰依と業 吉元 信行

南方佛教の業思想 野々目了

成業論の原典に対する一疑問 山口 益

中観学説における業の理解 安井 広済

——『中論』第十七章「業と果の考察」

の研究—— 小川 一乗

佛性の業 厭離穢土・欣求淨土——

中辺分別論における煩惱と業 舟橋 尚哉

菩薩行としての業 片野 道雄

——撰大乘論無性註第二章第三十四節

解説—— 横超 慧日

成佛の道と業 般若経を中心にして——

華嚴における業性の論理 鍵主 良敬

天台止観と業相 福島 光哉

業報説の受容と神滅不滅 木村 宣彰

『往生要集』における業思想

坂東 性純

日本靈異記における因果応報思想

——とくにその承譜について—— 白土 わか

親鸞聖人の業思想 稲葉 秀賢

親鸞における宿業の問題 幡谷 明

インド思想と業 雲井 昭善

——序章——

マハーヴィーラの業説 長崎 法潤

第二十一号(五十年五月) 六一八円

佛教經典現代語訳の諸問題 椋部 建

永久年中書写出家作法について 白土 わか

浄土の意義について 三桐 慈海

中辺分別論(障品)の和訳並びに研究(3) 舟橋 尚哉

\* \* \*

E・フラウワルナー博士の逝去を悼む 雲井 昭善

\* \* \*

現代中国の佛教事情 富沢 慶栄

\* \* \*

佛教の基本的な立場について

——親鸞の「主上臣下背法違義」と

釈尊の「依法不依人」との関連

性を求めて—— 舟橋 一哉

富貴原章信博士追憶 椋部 建

第二十二号(五十年十月) 六一八円

比丘の戒体発得と受具について

佐々木教悟

バルラームとヨサファート 渡辺 愛子

佛・法・僧 佐々木現順

\* \* \*

現代社会における人間の問題(上)

安藤 俊雄

第二十三号(五十一年五月) 六一八円

禅定と三昧 雲井 昭善

——佛教とヨーガ派との関わり——

念佛と懺悔 坂東 性純

dharmānudhammapāṭipatti

について 上杉 豊明

\* \* \*

ドイツ印度学界の現状 玉井 威

\* \* \*

\* \* \*

\* \* \*  
華嚴教学における正統と異端  
鎌田 茂雄

現代社会における人間の問題(下)  
安藤 俊雄

第二十四号(五十一年十月)六一八円

佛教学徒の反省 横超 慧日  
奉先源清の止観思想 福島 光哉  
『大智度論』の著者について  
——E. Lamotte, "Der Verfasser des Upadesa und seine Quellen"——

玉井 威  
説一切有部の極微論研究 上杉 宣明  
在家戒の授受について 大沢 伸雄  
——四分律行事鈔導俗化方篇を中心として——

ヨーロッパ 国際日本学術会議管見(上)における  
——ヨーロッパ佛教学者との関連——  
佐々木現順

\* \* \*  
韓国における「世界佛教学術会議」に出席して  
雲井 昭善

第二十五号(五十二年五月)七二二円

般若灯論釈「諸法不不生」論 野沢 静證  
チベット佛典について 稲葉 正就  
——山口益先生の労作を中心として——

「大乘の佛道体系」における弘誓について  
佐々木教悟

中観佛教から真言密教へ 高田 仁寛  
劉虬の無量義経序 古田 和弘  
起信論における生滅縁起について 一色 順心

ヨーロッパ 国際日本学術会議管見(下)における  
——日本文化と佛教学——

\* \* \*  
説一切有部の思想をめぐって  
佐々木現順

第二十六号(五十二年十月)七二二円

佛陀の教説と空の思想 安井 広济  
——『中論』第二十四章「四聖諦の考察」の研究——  
Mukhya (最勝智) と Saṃnyavahārika (世間的直接智) 長崎 法潤  
——Prāṇānamānasaを中心にして——

吉蔵の注疏にみられる宗教的課題  
を中心にして——

三桐 慈海  
元曉の涅槃宗要 木村 宣彰  
——特に淨影寺慧遠との関連——

Nāmarūpaparicheda (名色差別論)  
——第三の差別——  
柏原 信行

\* \* \*  
韓國佛敎史蹟踏査記 村松 法文

第二十七号(五十三年五月)七二二円

インドにおける最近の俱舍論研究の業績の一、二について 桜部 建  
智顛の権実二智論 福島 光哉  
大乘莊嚴經論の原典考 舟橋 尚哉  
——求法品を中心として——

無性造「撰大乘論註」序章の解説 片野 道雄

\* \* \*  
インド学への道しるべ 雲井 昭善  
——素描——

依他起性をめぐって 武内 紹晃

第二十八号(五十三年十月)七二二円

初期佛敎における縁起説の位置づけ

——三枝教授の批判に答える——

舟橋 一哉

自性清浄心の背景

鍵主 良敬

——真諦訳撰大乘論の場合——

大乘菩薩道における「唯」の思想

小川 一乘

唯識説における法と瑜伽行

小谷信千代

\* \* \*

ヘルムート・フォン・グラレーゼナップ博士——高貴なる魂の学——

佐々木現順

テラワード佛教と大乘佛教

W・ラーフラ

長崎法潤(訳)

第二十九号(五十四年五月)七二一円

念佛と戒

坂東 性純

最澄の梵網戒受容と本覚思想

白土 わか

滅諦・涅槃・彼分涅槃

吉元 信行

説一切有部の「三世実有」説

——三世と実有の原語と概念——

ヨーガ哲学における転変と時間

田端 哲哉  
山下 幸一

第三十号(五十四年十月)七二一円

戒本の誦出とその意義

佐々木教悟

——上座部佛教の僧伽を中心として——

中国佛教における佛性思想の側面

古田 和弘

阿毘達磨佛教の言語論

上杉 宣明

——名・句・文——

苦と苦観・苦滅観の問題

山口 恵照

——ウパニシャッドの考察から——

\* \* \* 柏原信行(訳)

第三十一号(五十五年五月)七二一円

ベータリプトラ (Pataliputra)

Pataliputra) 考

雲井 昭善

法華玄論の撰述について

三桐 慈海

曇始と高句麗佛教

木村 宣彰

\* \* \*

密教の特質

松長 有慶

教観相依に思う

福島 光哉

般若の空・慧と尸羅波羅蜜

佐々木教悟

第三十二号(五十五年十月)八二四円

龍樹の空の学説と自我の問題

安井 広濟

撰大乘論の造論の意趣について

片野 道雄

瑜伽師地論と大乘莊嚴經論

小谷信千代

華嚴教学における三宝説について

一色 順心

『アビダルマ・デイーバ』に言及される

サンキヤ説について

山下 幸一

第三十三号(五十六年五月)八二四円

江南佛蹟行記(上)

三桐 慈海

大内 文雄

連続と瞬間

佐々木現順

——佛教学を志す学生の為に——

天台智顛の涅槃経五行の解釈

福島 光哉

大乘莊嚴經論の研究

舟橋 尚哉

——菩提品第三十八偈——

第五十五偈を中心として——

明恵上人の念佛観

坂東 性純

江南佛蹟行記(下)

三桐 慈海

大内 文雄



印度歴遊

宮下 晴輝

第三十四号(五十六年十月) 八二四円

俱舍論に説かれる「慧」と「見」

—— ジャイニ博士の所論に関連して ——

校部 建

賢首法蔵に於ける智慧觀の一側面

鍵主 良敬

李通玄の伝記について

Nirvikalpa-pravēsa-dhāraṇī について

—— 無分別智と後得智の典拠として ——

松田 和信

仏教とジャイナ教

—— 五戒、八斎戒を中心にして ——

長崎 法潤

第三十五号(五十七年五月) 八二四円

曼殊院蔵『胎』印信断簡について

白土 わか

佛性思想における空性の問題

小川 一乘

『大乘大義章』における空の論義について

ロバート・F・ローズ

ぼろつくり

校部 建

旅行記 タイの僧院を訪ねて

大澤 伸雄

\* \* \*

現象世界の聖化

—— 『中論』二十六章における縁起 ——

The Ekottara-agaṇa Fragments of

the Gligit Manuscript Ōkubo Yusen

—— Romanized Text ——

第三十六号(五十七年十月) 八二四円

心染有情染 心淨有情淨

智儼の阿梨耶識觀

「心(citta)」の語義解釈 兵藤 一夫

—— 特にヴァスバンドゥの立場を中心にして ——

織田 顯祐

『分別縁起初勝法門経(AVVS)』

—— 経量部世親の縁起説 ——

松田 和信

研究生活の歩み

—— 学生時代をしのびて ——

横超 慧日

第三十七号(五十八年五月) 八二四円

「一切法因縁生の縁起」をめぐる

舟橋 一哉

認識過程 (avaśarāha, itā, avāya, dhāraṇā) について

—— 弥勒佛の出世について ——

—— 特にその時節を中心に ——

海外だより カルカッタとサンスクリッ

ト・ナンダンのこと 山ト 幸一

\* \* \*

研究生活の歩み

—— 中国佛教学研究に着手したところ ——

『二十論』と『三十論』にみられる経量

部的前提 L. Schmithausen

加治洋一(訳)

第三十八号(五十八年十月) 八二四円

大乘菩薩の證入次第について

—— 撰大乘論繪標綱要分管見 ——

佐々木教悟

ネパール諸写本対比による大乘莊嚴経論

の原典考 舟橋 尚哉

—— 第一章、第二章、第三章を中心として ——

「如来種」について 古田 和弘

最澄に於ける円戒受容の問題

山崎 欣弥

L・シュミットハウゼン「初期佛教にお

ける「智」と「覚」についての叙述ある

加治洋一(訳)

宮下晴輝(訳)

いは理論の諸相について」 桜部 建

Vasubandhuにおける三帰依の規定とその

第四十一号(六十年五月) 千三十円

Etienne Lamotte 教授の御逝去とフランス仏教学の最近の趨勢 白土 わか

の応用 松田 和信

日本天台への道 白土 わか

俱舍論註釈書 *Tatpariṣā* の試訳

「釈尊観」をめぐる一、二の視点 雲井 昭善

ゲルク派小史(上) ツルタイム・ケサン 小谷信千代

——第七章第一偈より第六偈まで——

宮下 晴輝

色法の主観的認識 上杉 宣明

第三十九号(五十九年五月) 千三十円

『五教章』と『探玄記』の相違をめぐって——

——“ruppati”の解釈をめぐって——

大乘唯識思想の成立 片野 道雄

ツォンカバの世俗諦論 小川 一乗

求道の旗手について 山口 恵照

——ツォンカバ所引の『中辺分別論』所説を通して——

法蔵教学に於ける始教と終教 大澤 伸雄

——ウパニシャッド対話篇から——

心理的諸概念の大乗アビダルマ的分析

——『五教章』と『探玄記』の相違をめぐって——

チベット佛教研究の昨今 小川 一乗

——善心所——

吉元 信行

氏家 覚勝

復礼法師の伝記とその周辺 一色 順心

J・W・ボイド『サタンと魔——キリスト教および仏教の邪悪のシンボル——』

第四十二号(六十年十月) 千三十円

飛華落葉を観じて悟るもの 白土 わか

L・シュミットハウゼン「阿毘達磨集論の見道規定とそのチベット註釈(特にプトンの註釈に関して)」

勝鬘經宝窟における佛性義 三桐 慈海

W・ライ「中国の中観論者における二諦の非二元性——三諦の起源——」

スリランカの仏教研究事情 柏原 信行

維摩詰経と毘摩羅詰経 木村 宣彰

米國チベット仏教学者訪問記 小谷信千代

アビダルマ研究 (ABHIDHARMA-STUDIEN)

ゲルク派小史(下) ツルタイム・ケサン 小谷信千代

——第三結集の歴史性について——

I・五蘊論と五事論

——我に関する章——(へ上)

サンガの分裂を誠告するアショーカ法勅

E・フラウワルナー

応用仏教学への一志向 吉元 信行

——第三結集の歴史性について——

E・フラウワルナー

ウイスコンシン大学における浄土教ジョイント・セミナー参加報告 宮下 晴輝

——第三結集の歴史性について——

E・フラウワルナー

ウイスコンシン大学における浄土教ジョイント・セミナー参加報告 宮下 晴輝

——第三結集の歴史性について——

E・フラウワルナー

ウイスコンシン大学における浄土教ジョイント・セミナー参加報告 宮下 晴輝

——第三結集の歴史性について——

E・フラウワルナー

ウイスコンシン大学における浄土教ジョイント・セミナー参加報告 宮下 晴輝

——第三結集の歴史性について——

E・フラウワルナー

ウイスコンシン大学における浄土教ジョイント・セミナー参加報告 宮下 晴輝

——第三結集の歴史性について——

E・フラウワルナー

ウイスコンシン大学における浄土教ジョイント・セミナー参加報告 宮下 晴輝

——第三結集の歴史性について——

E・フラウワルナー

ウイスコンシン大学における浄土教ジョイント・セミナー参加報告 宮下 晴輝

——第三結集の歴史性について——

E・フラウワルナー

ウイスコンシン大学における浄土教ジョイント・セミナー参加報告 宮下 晴輝

——第三結集の歴史性について——

E・フラウワルナー

ウイスコンシン大学における浄土教ジョイント・セミナー参加報告 宮下 晴輝

——第三結集の歴史性について——

E・フラウワルナー

ウイスコンシン大学における浄土教ジョイント・セミナー参加報告 宮下 晴輝

初期仏教研究の回顧 桜部 建

第四十三号(六十一年五月) 千三十円

世間現量と清浄現量 長崎 法潤

ネベル写本『唯識三十頌』の原典考、並  
対照による『唯識二十論』第一偈第二偈の原本  
について 舟橋 尚哉

—Lect. 本の原本を求めて—  
随信行・信勝解を手掛りにして—

兵藤 一夫

『往生要集』の別相観 福原 隆善

—『観仏三昧海経』の影響をめぐって—

中国撰述佛典と大藏経 木村 宣彰

唯識思想体系における自我意識について

服部 正明

野沢静証先生を追悼して 小川 一乘

第四十四号(六十一年十月) 千三十円

『法華玄義』における宗と体

—経典研究法に関する一考察—

福島 光哉  
ツオンカバの解明するシャーンタラクン  
タの中観思想 片野 道雄

—『善説心髓』試解—

菩薩の行位と華嚴の成仏説について 一色 順心

スリランカにおける供養 (puja) 柏原 信行

華嚴の空観の側面 鍵主 良敬

—賢首法蔵の所説を手掛りに—

『俱舍論』における本無今有論の背景  
—『勝義空性経』の解釈をめぐって—

宮下 晴輝

梵文称友造『俱舍論疏』随眠品の欠落箇  
所について 舟橋 一哉

南岳慧思後身説 古田 和弘

『法華三昧懺儀』研究序説

南岳慧思の頓覚説 山野 俊郎

—頓覚と行位の問題を中心として—  
Haribhadra-sūtri の解脱への道  
—YDS にみるヨーガの階梯—

浅野 玄誠

S・コリンズ『我』なき人間—テー  
ラヴァーダ仏教における心象と思想—  
桜部 建

—\* \* \*

瑜伽行中観派の思想 一郷 正道

第四十六号(六十二年十月) 千三十円

—\* \* \*

仏教における「対論」とは何か  
—チャンドラキールティの場合—

小川 一乘

三世実有説再考 吉元 信行

—その原語と思想的背景—

『三彌底部論』の研究 加治 洋一

—我に関する章—〈中〉

ネパール写本と私 舟橋 尚哉

—『大乘莊嚴経論』テキスト校訂難  
感—

中央アジア出土『首楞嚴三昧経』梵文写  
本残葉—インド省図書館の知られざるヘル  
ンレ・コレクション— 松田 和信

Asoka's "Schism" Edict K. R. Norman

パーリ語文献にあらわれたる四念処の修習について 佐々木教悟

ラムリムチェンモ (止の章) の和訳(一)

ツルティム・ケサン

真妄から理事へ

織田 顕祐

——法蔵の智儼観——

現観辺智諦現観

宮下 晴輝

\* \* \*

『成唯識論』の文献上の性格と思想の特徴 渡辺 隆生

第四十八号(六十三年十月) 千三十円

維摩詰所説経と吉蔵

三桐 慈海

五種法身説

木村 宣彰

——中国佛教初期における法身説の分類——

チム・ジャンピーヤンの『俱舍論釈』

(第六章賢聖品) の和訳(一) 小谷信千代

『順正理論』の三世実有説 福田 琢

\* \* \*

ジュニヤーナシュリーミトラのアポーハ論 桂 紹隆

第四十九号(平成元年五月) 千三十円

唯識思想の成立について 舟橋 尚哉

——唯心から唯識へ——

ラムリムチェンモ (止の章) の和訳(二)

小谷信千代

非摂滅無為

宮下 晴輝

研究難感

白館 戒雲

先師富貴原章信博士 追慕

稲垣 淳造

ハーバード大学の仏教学

——学生の見点から——

ロバートF・ローズ

第五十号(元年十月)

千円

永明延寿の浄土思想

福島 光哉

ツォンカパの中観仏教了義説序

——善説心髄』二、(一)〜(三)、(四)試解——

片野 道雄

沈み込み (Bying ba) と昂ぶり (rgod pa)

小谷信千代

『維摩経』を機縁として

長尾 雅人

——否定と肯定の二方向について——

『現観莊嚴論明義釈の注釈、真髓莊嚴』

和訳(1) 兵藤 一夫

第五十一号(二年五月)

千円

仏教学から学んだもの

鍵主 良敬

——「如是我聞」について——  
華嚴教学における願行について

——法蔵の所説を中心に——

一色 順心

『三彌底部論』の研究

加治 洋一

——我に関する章——(下)

初期ジャイナ教の教理

杉岡 信行

——Dandya にて——

吉蔵の死不怖論

三桐 慈海

ジェイン・ヴィンユヴァ・バラテイ

テールパンタ派ジャイナ教研究所

橋本 篤司

日蓮の誓願

渡辺 宝陽

第五十二号(二年十月)

千円

業論に対する龍樹の批判 小川 一乘

原始仏教における三十七道品の形成

吉元 信行

浄影寺慧遠における依持と縁起の背景について

織田 顕祐

『撰大乘論』の一節(第二章二十四節)について

片野 道雄

サンスクリット事始め

長崎 法潤

——明治の求法僧——